

令和4年4月に奈良女子大学は大きな変化を迎えます。奈良教育大学との法人統合と、女子大学としては全国初の工学部設置があります。こ

# ならじよ

奈良女子大学

# Stories

のような大きな変化に至った過去からの経緯について、そして奈良女子大学の未来について語ろうと思います。今回は1908（明治41）年「女

## 「女高師」生んだ近代化への熱意

子高等師範学校（女高師）」の奈良設置の話をします。

東京（第一女高師）に続く、第二女高師が奈良に設置されることが決定したのは、



正門から望む奈良女子大学記念館。前身の奈良女子高等師範学校の本館で、国の重要文化財に指定されている。奈良市

明治40年3月26日の第23回帝國議會（衆議院）においてである。京都設置の建議案が提出されたが、131対132の1票差で奈良設置が決まった。

施行のエネルギーと近代化への熱意であったと思われる。第1回目の入学選抜は、地方長官の推挙した156人から83人を学校長が選抜、体格検査と口頭試問を経て、7人が入学し63人が卒業した。当時の生活を、初期の卒業生である1期の岩崎文江（画家いわさきちひろの母）、2期の宮城タマヨ（第1回参議院議員）、5期の小倉遊亀（画家、文化勳章受章者）の自伝などから追跡できる。

奈良側の主張は「奈良市・県は十余年にわたる官立学校の誘致を行い、奈良市は市債を発行し奈良奉行所跡地2万有余坪を既に文部省に寄付していた」ことであり、京都側の主張は「京都は都会であり、既に高等学校、大学、高等工業学校がある」ことであった。

また、開校時からの教員として、錦織竹香（修身・裁縫教授および寮務主幹）、水木要太郎（国文・国史教授）が著名で、卒業生に大きな影響を与えた。

女高師を設置したいという時代背景は高等女学校の激増であり、これに見合う教員養成が必要であった。奈良への官立学校の誘致は、同20年の奈良県再設置、同31年の市制

（奈良女子学長 今岡春樹）

前回は110余年前の奈良女子高等師範学校(女高師)誕生の物語をしました。奈良県と奈良市の熱意が誕生を後押ししたのです。今回と次回

# ならじよ 奈良女子大学 Stories

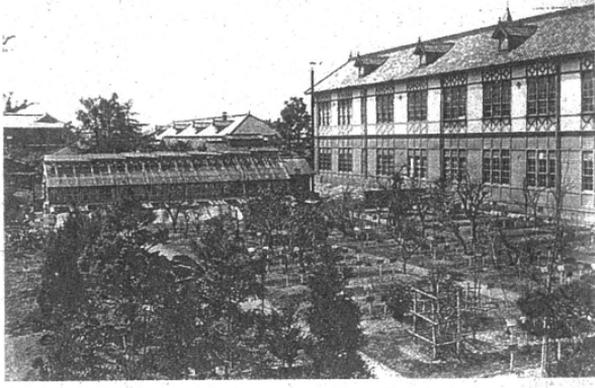
\*\*\* 2 \*\*\*

で70余年前の奈良女子大学誕生の話をします。

奈良女高師が奈良女子大学に単独昇格する昭和24年5月31日に至るドラマは固有の輝

## 教育システム大変革の波 大学昇格へ

昭和26年時の奈良女子大学キャンパス。奈良女子高等師範学校からの昇格に関係者は奔走した(同大学提供)



きを持つている。当時の日本は占領期であり、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ/SCAP)指導による教育システムの改革が行われた。統

制から民主へという大変革である。

GHQの民間情報教育局(CI&E)の教育課が実務を担い、2回に分けて新制大学が設置された。23年に11私立大学と1公立大学が設置され、そのうち5大学が女子大学であった。24年に国立大学を18大学(7帝大と11官大)から69大学へと大幅に拡大した。

CI&Eの国立高等教育に関する考え方は、民主主義という理念から出発し、機会均等を具体的なテーマとした。

地方・都市での機会均等のため「一県一大学と教養・職業学部必置」、男女での機会均等のため「単線化6・3・3・4制と男女共学」が大方針となった。

「一県一大学」は地方への配慮であるので、北海道、東京、愛知、大阪、京都、福岡の6都道府県は都市部として複数の多様な大学を認めた。23年の段階で東京女高師は都市部にあるので、単独での女子大学昇格が確実視されていた。

奈良県では、奈良師範学校、奈良青年師範学校と奈良女高師を母体として1つの大学の総合大学を作るのが原案であった。奈良女高師は卒業生も教官も生徒も単独昇格を目指して必死の活動を続けていた。23年4月14日に東京・目黒の雅叙園で行われた奈良女高師側とCI&E側との会合がその活動の至高となる。

(奈良女子大学学長 今岡春樹)

奈良女子高等師範学校（女高師）の歴史は40年である。女子大学への単独昇格に向けられた熱意は同窓会「佐保会」の母校愛に他ならない。初期の卒業生では、1期の

# ならじよ 奈良女子大学 Stories



\*\*\*\*\* 3 \*\*\*\*\*

伊藤カズが同会東京支部の中心人物で、2期の宮城タマヨとともに東京での昇格活動を牽引した。奈良からは4期の波多腰ヤスが主唱者。中堅どころの教官としては、稲葉文枝や長谷川千鶴が活動した。

## 母校愛に応えたホームズ博士



奈良女高師の大学昇格に尽力したルル・ホームズ博士（一般社団法人大学女性協会提供）

生徒も熱意を持ち、自治会委員長、早瀬和恵も額に汗した。

文部省（現文部科学省）、国会議員そして連合国最高司令官総司令部の民間情報教育局（CIE）への陳情が粘り強く続いた。

大学の単独昇格に最も関与したのはルル・ホームズ博士である。ホームズ女史は、連合国最高司令官の顧問でCIEで女子高等教育を担当していた。日本の現実を見て、男

女共学が熟すのを待つより学士を持つ女性の数を確保することに価値を置き、私学も含め「女子大学設立」を実行した。

昭和23年4月14日に東京・目黒の雅叙園で奈良女高師側と会合を持ち、「分かりました。やってみましょう。東は東京で西は奈良ですね」と単独昇格を約束した。そして同

月23日帰国の際、CIEの男性顧問が女子の4年制大学設立に反対であることを憂慮し

「東京女高師と奈良女高師の新制4年制大学の認可には、文部省もCIEも消極的で、貴方のお力添えが必要です」と後任への申し送り書をしたためた。

24年5月31日、奈良師範学校および奈良青年師範学校を母体として奈良学芸大学（現奈良教育大学）が、奈良女高師から奈良女子大学が設立され、地方での一県一大学原則の唯一の例外となった。

奈良女子大は文学部と理化学部の2学部で出発し、28年に文学部、理学部、家政学部の3学部となり以後70年の骨格を作った。家政学が学問として認知されるためには日

本家政学会の設置が必須であった。ここでも波多腰ヤスの活躍がある。

（奈良女子大学学長

今岡春樹）

今回は4月1日に設立した奈良国立大学機構についてお話しします。

平成29年8月29日に出された「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革

# ならじよ

奈良女子大学

# Stories

4

に関する有識者会議報告書」が事の発端である。

報告書は、教員養成大学ではない本学にも附属学校園での対応を求め、奈良教育大学においては「国立教員養成大学が現在の組織や規模のまま

## 法人統合で学問の府に

で機能強化と効率性の両方を追求することは困難」と指摘した。そのうえで改革について「平成33年度末までに一定の結論」を求めており、激震が走った。

選択肢が4つ示され、このうち、奈良教育大学が可能なのは「②同一県内ないし近隣の総合大学と教員養成単科大学が統合」か「③都道府県をまたいで存在する複数の教員養成単科大学同士が統合」であ

り、両大学で②を選択した。

1法人2大学制度に挑戦した原点は明治にある。奈良県は明治9年に堺県に合併され、同14年に堺県が大阪府に合併され、大阪府大和国となった。奈良県が再設置されたのは同20年で、奈良教育大学の前身である奈良県尋常師範学校は同21年に創立された。再設置に奔走したのは安堵町の今村勤三氏などである。合併直後の大阪府会で「師範



奈良県の再設置に尽力した今村勤三（安堵町歴史民俗資料館提供）

学校は堺や奈良には不要である。大阪に一校あればよい」との発言があったという。

「自分の地域のこととは自分で決めたい」という思いが今村氏らの原動力であった。

法人統合では両大学はその個性とともに残るので、組織ではなく学問の総合化を考えたい。例えば、米カリフォルニア州には「クレアモント・カレッジズ」と呼ばれる、1女子大学と4大学、2大学院大

学の大学群がある。カレッジズの努力でクレアモント市は博士があふれる市となった。われわれは「奈良カレッジズ」と呼び、カレッジズと地域が融合した「学問の府」を目指し、手始めに8月最終週に「学問祭」を行う予定である。

（奈良女子大学学長

今岡春樹）

今月と来月で令和4年度に設置した女子大学として日本初の工学部についてお話しします。

大学における工学部の位置づけは複雑で、大学の種類に

# ならじよ 奈良女子大学 Stories

\*\*\*\*\*5\*\*\*\*\*

よって、国によって、時代によって違いが顕著である。

大学の種類として、総合大学の工学部と工科大学がある。前者の世界初は東京大学といわれる。明治時代初期、

## 女性比率高まる工学分野

「工部大学校」で当時世界最先端の工学教育が行われ、辰野金吾や高峰讓吉など日本近代化の巨人が輩出した。これが後の東京大学工学部になる。

後者はフランスで、英国の産業革命に遅れまいと工科大学であるエコール・ポリテクニークを設立した。米マサチューセッツ工科大学（MIT）、東京工業大学、インド

工科大学はこの延長線上にある。素早く反応した米国では、イノベーション主導のオリ

ン工科大学の設立、STEM

21世紀に入るとき、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が学習の4本柱（知ること・

なすこと・共に生きること・人間として生きること）を発

表した。

### 法人奈良女子大学とDMG森精機と協力の包括協



工学教育に関する包括協定を締結し、記者会見するDMG森精機の森雅彦社長（右）と奈良女子大学の今岡春樹学長（左）

（科学・技術・工学・数学）教育法の制定、MITでのCDIO（考案・設計・実装・操作）という工学教育方針などが次々に打ち出された。

教育立国のシンガポールではTSLN（思考する学校、学ぶ国家）、続いてTLLM（少なく教え、多くを学ぶ）という国家キャンペーンを打ち出した。

いわば「人間として生きるための工学」が21世紀モデルとなり、女性の工学分野への進出につながった。米ハーバ

イ・マッド大学はコンピュータ学科の女性入学比率を、2006年の10%から10年の40%へと引き上げた。インド工科大学は国家の割り当てで、16年の8%を21年では20%に引き上げた。  
（奈良女子大学学長 今岡春樹）

今回は21世紀の工学教育モデル「人間として生きるための工学」を紹介しました。今回は女子大学での工学部設置の話をします。

日本ではまとめて語られる

# ならじよ 奈良女子大学 Stories

\*\*\*\*\*6\*\*\*\*\*

理学部と工学部であるが、アメリカ国家科学賞最初の受賞者、セオドア・フォン・カルマンは「理学者はあるがままの世界を研究する。工学者は今まででなかった世界を創造す

## 女子大卒エンジニア 活躍する社会に

講義を受ける工学部の学生ら



日本女子大の3大学のみである。令和4年度に本学は、日本女子大で初の工学部を設置した。なお2年度に武庫川女子大で建築学部が誕生している。

5年度には京都女子大がデータサイエンス学部を、6年度にはお茶の水女子大が共創工学部を、日本女子大が建築デザイン学部を設置予定である。女子大卒のエンジニアが活躍する社会の到来である。

さて、本学工学部の設計方針には特徴が3つある。

1つ目は、専門分野を遅く決めること。入学から2年半は工学一般を広く学んでもらい、「ものが作れること」と「何の役に立つかを常に意識すること」の工学流儀を徹底して鍛える。

2つ目は、自分を知り、他

人を知り、社会を知ることの重視。これがあって初めて「人間として生きるための工学」が創造できるからである。

3つ目は、本学で用意できないものは周りから借りるということ。具体的には、電機や機械の工学基礎科目は奈良工業高等専門学校の方に教わる。実習ではDMG森精機に場所と講師と最先端マシンを借り、ネーミングライツにより工学部棟を「DMG MORI棟」と命名した。

従来の工学教育では全員が同じルートで山を登ったが、本学の工学部では全員が違うルートで山を登ることになる。何度も自分で決断しながらルートを開拓するのである。

(奈良女子大学学長

今岡春樹)

博士号は学問で身を立てるときのパスポートで、新制大学では自前の博士を育成することが夢でした。今回は大学院博士課程の歴史を語りま

# ならじよ 奈良女子大学 Stories

\*\*\*\*\*7\*\*\*\*\*

昭和24年に本学を含む新制国立大学ができた。学年進行で28年に大学院が設置されるが、旧帝大など12大学限定であった。  
本学の大学院博士課程に関

## 博士学生を研究者として処遇へ

昭和58年度の卒業式と第一号となる博士課程の学位授与式（『奈良女子大学百年史』より）



程」が誕生した。構想から5年、入学定員13人の夢が実現した。

2回目は平成3年で、大学院重点化が開始され学位制度の見直しがあった。表記が「博士（専攻分野）」に変わり、本学では、学術博士を見直し、博士（学術）、博士（文学）、博士（理学）などと記した。

3回目は10年に大学院学生定員倍増の流れで、前・後期課程とする区分制博士課程として定員を13人から増やし、ピーク時には50人に拡大した。法人化後、縮小し現在は38人である。

最近の変革として、令和2年度に名称を「人間文化総合科学研究科」とし学部と直結する専攻とした。

この間、課程博士690人、論文博士183人の計8

73人の博士が誕生した。博士取得は最短で27歳になる。女性はライフ・イベントと重なるので支援が必要である。社会人などで標準より長い学修期間を設定する「長期履修制度」▽大学以外の就職先とのマッチングを図る「キャリア支援制度」▽託児も可能な「子育て支援システム」など、工夫を重ねている。

国は第6期科学技術・イノベーション基本計画で、生活費相当額を給付する博士学生を7年度までに3倍にする目標を立て、大学フェローシップ創設事業、次世代研究者挑戦的研究プログラムを創設した。本学は3年度、両方に採択され、博士学生を研究者として処遇する道が開けた。

（奈良女子大学学長  
今岡春樹）

今回から学部 of 歴史を述べます。文学部、理学部、生活環境学部の順です。

昭和24年に新制の奈良女子大学が発足したとき、文学部

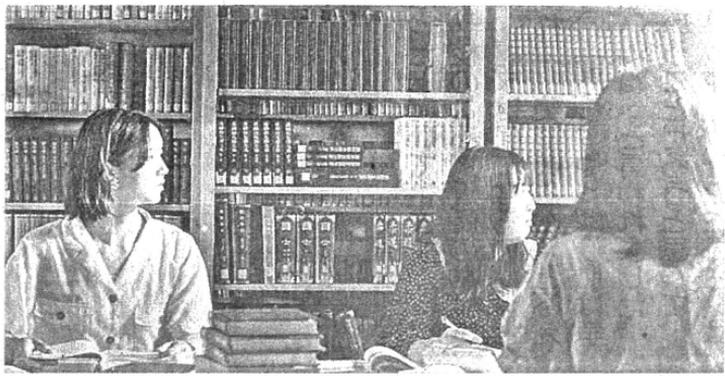
# ならじよ 奈良女子大学 Stories

\*\*\*\*\* 8 \*\*\*\*\*

と理家政学部の2学部であった。文学部の学科構成は、社会学科、国語国文学科、英語英文学科、史学地理学科であり、27年に教育学科が加わり5学科となった。以来、文学

## 世の中を「言葉」で切り取る

文学部のゼミで、議論に聴き入る学生



部はその姿を大きくは変化させずに来た。ちなみに29年の4年制大学女子進学率は、2・4%であった。

42年（4年制大学女子進学率4・9%）に史学地理学科が史学科と地理学科に分かれ6学科となり、47年（同9・3%）に英語英文学科を英語・英米文学科と名称変更した。

61年（同12・5%）に男女雇用機会均等法が施行され、女性が「総合職」に就ける時代が到来した。教員として生涯働くという伝統を持つ本学では、教員以外でも指導的立場で活躍する卒業生が多出した。均等法施行直後に社会に出た、法務省大臣官房審議官や大手出版社出版部部長となった卒業生がいる。それ以前にも、一等海佐や大手百貨店常務取締役として人生を切り開いた卒業生がいる。

平成3年（同16・1%）に団塊ジュニア世代による18歳

人口の200万人超えがあった。ただ、やがて減少するの

で、大学は「臨時的定員」増で対応した。定員増を解消し始めた7年（同22・9%）に大型改組があり、国際社会文化学科、言語文化学科、人間行動科学科の3学科となった。16年（同35・2%）の法人化を経て、20年（同42・6%）に人文社会学科、言語文化学科、人間科学科、と名称を変更し現在に至っている。

入学式で、文学部の学びは「世の中を言葉で切り取る」ことだと言ってきた。国立大学で文学部があるのは、旧帝大を含めて13大学である。誇り高き本学の文学部卒業生は累積で9934名である。  
(奈良女子大学学長 今岡春樹)

今回は学問の王道を教授する理学部の歴史です。

昭和24年に新製の奈良女子大学が発足した。当初は理家政学部であったが、28年に理

# ならじよ 奈良女子大学 Stories

\*\*\*9\*\*\*

学部と家政学部に分離した。理学部は数学科、物理学科、化学科、生物学科の4学科であった。46年には稲葉文枝が国立大初の女性理学部長に就任した。

## 卒業後、指導的立場で活躍

### 理学部

奈良女子大理学部部に設置されている加速器のメンテナンスをする学生



18歳人口の200万人超えがあった平成3年に情報科学科を設置し5学科となった。期限を区切って入学定員を増やす「臨時的定員」の解消時期である8年に数学科、物理

科学科、化学科、生物科学科、情報科学科に改組。26年に学部を超えた大型改組により、数物科学科と化学生命環境学科の2学科とし、後者は30年に化学生物環境学科と名称変更した。

戦後70余年の女性の4年制大学進学率は2・4%から50・9%と飛躍的に増加してきた。日本には780余の大学があり、その1割が女子大学で、うち理学部を持つのは3大学に限られる。このようなことから女性進学者中の理学部の割合は継続して2%程度であった。一方で現在、卒業生の54%が他大学も含めて大学院へ進学している。

昭和61年（女性の理学部進学率0・25%）に男女雇用機会均等法が施行され、女性が「総合職」に就職できる時代が

到来した。本学理学部から、指導的立場で活躍する卒業生が多出ることになる。

均等法施行直後に社会に出て、文部科学省の総括審議官や大手鉄鋼会社のフェローとして活躍する卒業生がいる。それ以前にもロレアル・ユネスコ女性科学賞を受賞し国立大学法人理事となった卒業生、入社後博士（工学）を修得し大手企業執行役員として人生を切り開いた卒業生がいる。

文学部と理学部は学問の2枚看板であり、それぞれ「個別から見る普遍性」と「共通から見る普遍性」を対象としている。学問の王道を行く本学理学部の卒業生は8851名である。

（奈良女子大学学長

今岡春樹）

今回は女子大学に特有の生活環境学部についてお話しします。

昭和24年に新制の奈良女子大学が発足した。大正8年施

# ならじよ

奈良女子大学

# Stories

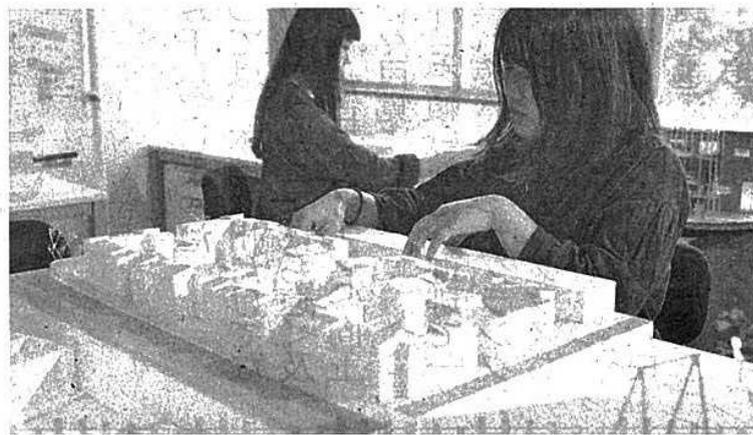


\*\*\*10\*\*\*

行の大学令では、家政学部は学部として認められていなかった。昭和22年の学校教育法で認められるのだが、ルル・ホームズ博士を始め家政学の指導者たちの血のにじむ努力

## 多彩な才能開花 **生活環境学部**

学生寮の設計に取り組み生活環境学部の学生。入居は今年4月に始まった。



の結果である。

当初、理家政学部であったが、28年に理学部と家政学部に分離し、食物学科、被服学科、住居保健学科の3学科で

スタートした。39年、住居保健学科を住居学科に改称し、48年に生活経営学科を設置した。

波多腰ヤスは初代の理家政学部長と家政学部長を務め、日本家政学会第3代会長となった。家政学部の発展に不可欠な同学会で、初代と2代会長は日本女子大学とお茶の水女子大学から選出された。

期限を区切って入学定員を増やす「臨時的定員増」の解消時期である平成5年に家政学部を生活環境学部へ改組し、生活環境学科と人間環境学科の2学科とした。17年と18年で食物栄養学科、生活健康・衣環境学科、住環境学科、生活文化学科の4学科に改組した。26年に生活健康・衣環境学科を心身健康学科と情報衣環

境学科に改組し、令和4年、情報衣環境学科と生活文化学科を改組して文化情報学科を設置した。

この間、教育系大学や教育学部の教員が多く輩出し、女性として初の国立大学長、工業高等専門学校長も誕生。一方で多彩な能力が開花し、歌手や小説家、大手自動車会社常務役員や大手繊維会社部長、食品ロスジャーナリストなどとして活躍する卒業生もいる。

平成30年度に改正された科学研究費の審査区分表で大事件があった。生活科学は従来複合領域ではなく社会学の下に置かれ、衣食住の自然科学的・工学的側面が区分から消滅した。

(奈良女子大学学長

今岡春樹)

# 社会連携センター

今月は社会貢献についてお話しします。

平成16年に国立大学の法人化が行われた。続いて18年に

## ならじよ 奈良女子大学 Stories

\*\*\*11\*\*\*

教育基本法が約60年ぶりに改正され、次の第7条が追加された。  
「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、

### 未来へのプロジェクト着実に

第2回プラチナ大賞の優秀賞を受けた下市町の枚本龍昭町長（左から2人目）と奈良女子大の寺岡伸悟・研究院人文科学系教授（同3人目）ら―平成26年



これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」  
その結果、大学の役割として、教育と研究に社会貢献が

加わった。本学では17年に「社会連携センター」を設置し、その下で産学官連携と地域連携の2つの活動を続けている。

前者の例に「地域イノベーション戦略支援プログラム」がある。けいはんな学研都市ヘルスケア開発地域を舞台に、常時、体温や心拍数、ストレスなどを測定する装着型の「バイタルセンサー」の商品化などを行った。成果は奈良県立医科大学に引き継がれ、橿原市を中心とする「MBT (Medicine Based Town) コンソシアム」へと大きな展開をしている。

後者の例には「らくらく農法」がある。下市町枋原地区を舞台に、高齢者が楽しく生き生きと農業を営める環境を構築するもので、将来の社会モデルを表彰する第2回プラ

チナ大賞「優秀賞」を受賞した。

このプロジェクトは「奈良エクステンション」として新たな展開を生んだ。米国の州立大学が郡ごとにエクステンション事務所を置いて、大学と地域が研究・教育を連結する制度を範としたものである。

下市町、下北山村、東吉野村をモデル地区として開始し、駐在するエクステンション特任助教を採用。自治体、企業・NPOと協力する。それぞれのテーマは「高齢者によるITを活用した伝統文化の遠隔伝達」「自然環境がもたらす人間のストレス軽減による村の魅力創出」「環境教育をキーワードにする新住者のコミュニティ形成」である。

（奈良女子大学学長 今岡春樹）

未来へ向かって

今までは過去の話をしてきました。最終回となる今回は、目指す大学の未来の話をします。

令和2年度から初等中等学

# ならじよ

奈良女子大学

# Stories

\*\*\*\*\*12\*\*\*\*\*

校に新学習指導要領が順次導入された。一人一人の個性を伸ばし、チームで協力しながら仕事を社会の実現を目標にしている。キーワードは「生きる力」である。従来の画一教育で強調され

## 個性あふれる研究力を育成

た学力は「既存の知識を効率よく吸収し消化する」ものであったが、今後は学力に加え個性あふれる研究力や創造力を育成する。後者の基盤として「読み書きそろばん」に



奈良国立大学機構の発足を発表する記者会見に臨む榊裕之理事長（前列右から3人目）と筆者（同4人目）  
 令和4年4月1日、奈良市の奈良女子大学

「情報」が加わった。高校では情報科目の必修化が始まり、7年度大学入試から出題される。

本市の附属小学校（奈良市）には大正時代から100年かけて練り上げた、上記目標にぴったりの学習法がある。カリキュラムは「しごと・けいこ・なかよし」の3区分である。

学力の学びは「けいこ」で行う。社会にある問題を分析し解決法を考える研究力と創造力の学びが「しごと」で、クラスとは別に異年齢の学習集団を作って、所属する児童で集団生活を改善していくのが「なかよし」である。

指導要領大転換の直接原因は人口縮小にある。人口縮小社会では、「同じことができない人」よりも「違いを作り出す人」が求められる。例えば「人的資本経営」は、企業が求める継続的な「違い」を

「個性あふれる複数の人の協力で作り出す考え方である。」

女子高等師範学校を前身とする本学は、高校で学ぶ英国数理社と家庭の「けいこ」について、研究力をベースとした高度な学びを作ってきた。今春、工学部を新設した目的は、エンジニアが発揮する創造力を加えることで大学の「しごと」を充実することである。

本学は奈良教育大学と法人統合し、奈良国立大学機構を新設した。機構の榊裕之初代理事長が作ったビジョンは、「学び合い、支え合い、高め合う組織を形成する」と結ばれている。これこそ、高等教育機関のそして地域の皆さまとの「なかよし」であり、心から進めようと思っている。

（奈良女子大学学長

今岡春樹）

おわり